

拜啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

委員の皆様には、常々私ども淀川流域住民にいろいろとご配慮をくださいまして、深く感謝申し上げます。

さて、本日は流域委員会の中間報告及び、今後の議論などについて気がかりなことがございましてご相談申し上げます。

皆様の御努力により作成いただきました中間報告におきましては、高規格堤防等の事業について、以下のように記載されて御座います。

- ・ 高規格堤防（スーパー堤防）は、超過洪水対策としてばかりでなく、現在の脆弱な堤防を破堤しにくいものにするという意味でも、推進されるべきである。
- ・ 高規格堤防の完成には多くの困難を伴うため、当面の対策として、堤防の強度の増加を図ることも重要である。

全くその通りでありまして、高規格堤防事業は推進されるべきものと思っておりますが、具体的にどのようにこの困難な問題を解消してゆくのかを、示されていないことが気にかかるところで御座います。

私共の目には、現在の淀川の高規格堤防事業は、法整備や、全体計画の策定が不十分なまま、場当たりに事業を推進しているように映って御座います。

その例を申し上げますと、例えば、

- ① 全体事業費・計画・構造を詳細に策定しないまま事業を推し進めている。
 - ・ 何年後の完成を目処とするのか。
 - ・ 当初（淀川の高規格堤防事業着手時）の計画全体事業費はどれだけか。
 - ・ 当初の計画全体事業費のうち、今現在何%が完了しているのか。
 - ・ 現在見直してみても、あとどれだけの費用がかかり、全体事業費はどうなるのか。
 - ・ 全体の詳細な平面計画・横断計画はどうなっているのか。
(国道1号線・阪神高速・堤防と平行に走っている水路等をどうするのか。)
 - ・ 地盤改良の要否の条件が未整理。また、地盤改良効果の検証手法が未決定。
 - ・ 堤外側の緩傾斜盛土施工の事前処理として、既設護岸撤去の要否が未整理。等
- ② 事業のために地権者が自由に土地を使用できない期間の、地権者の固定資産税の納入義務の免除等の法整備的なことが未整理である。
- ③ 事業を進め易そうな箇所において、無理矢理に予算を要求し、地権者等と事前の協議を詳細に取り交わさずに手を着けている。

などの事柄で御座います。

上記の結果、着手後、地権者（民間企業・自治体）の提案する条件が厳しくなり、高規格堤防事業として無理を生じて、予算上の都合のため、計画を見直したり、中止したりといったことが出来なくなり、以下のように地権者の過剰な要求を呑まざるを得ず、結果的に一部地権者等の過大な利得となるなど、支障が生じていると考えて御座います。

- ① 更地で引き渡す事を条件として算定した移転補償を行った事案の建物の基礎や、高規格堤防事業が絡まずとも地権者が取り壊す必要がある建物等の取り壊しなどの処理

をも、国土交通省の予算で行っている。

- ・ 住友特殊金属跡地（上屋を含む建物のコンクリート殻を盛土内に埋め殺している）。
- ・ クラボウ跡地（一部建物基礎の撤去。その他部分の基礎は盛土内埋め殺し）。
- ・ 北牧野小学校跡地（建物上屋と基礎の撤去）

② 将来的には無駄となるか、または本来必要でない土留め擁壁を建て過ぎている。

点野地区・木屋地区・新町地区等、多々高額の擁壁群があるが、その無駄の際たるものが国土交通省淀川工事事務所の四方を囲んでいる擁壁であり、高規格堤防と呼べるような代物ではない。木屋地区の擁壁なども、国道1号線の高規格堤防化が現実的でないことから、無駄になることは明白である。

既成の各工事における、盛土自体の施工費に対する、杭基礎を含む擁壁等の施工費の比率を調査すれば、如何に無駄金を使っているか解る。僅かな平場を確保するための高さ2～3m程度の低い擁壁を建てるために、その基礎として10mを越える長さのコンクリート杭を何十本も施工している例さえある。

③ 全箇所の擁壁を管理者である淀川工事事務所が把握できていない恐れがある。

④ 管理を地権者に引き渡した擁壁も、適正に管理されているか不明である。

⑤ 擁壁の災害（地震・越流）時の点検や、破損した場合の復旧等についても詳細にルール化されていない恐れがある。

⑥ 淀川工事事務所から、地権者に対して莫大な借地料が支払われている事案も多数あり、これは、事業途中の地権者の固定資産税納入の助けとなっているが、借地料が固定資産税を上回り、地権者の利得となっている場合もある。

淀川の高規格堤防事業とは、このような問題を抱えながら、今、無理を推して進捗すべき事業なのでしょうか。このままでは、大きな負の遺産を残す事になると考えます。

一旦立ち止まって、法整備・詳細な全体計画策定後、再開すべきではないでしょうか。

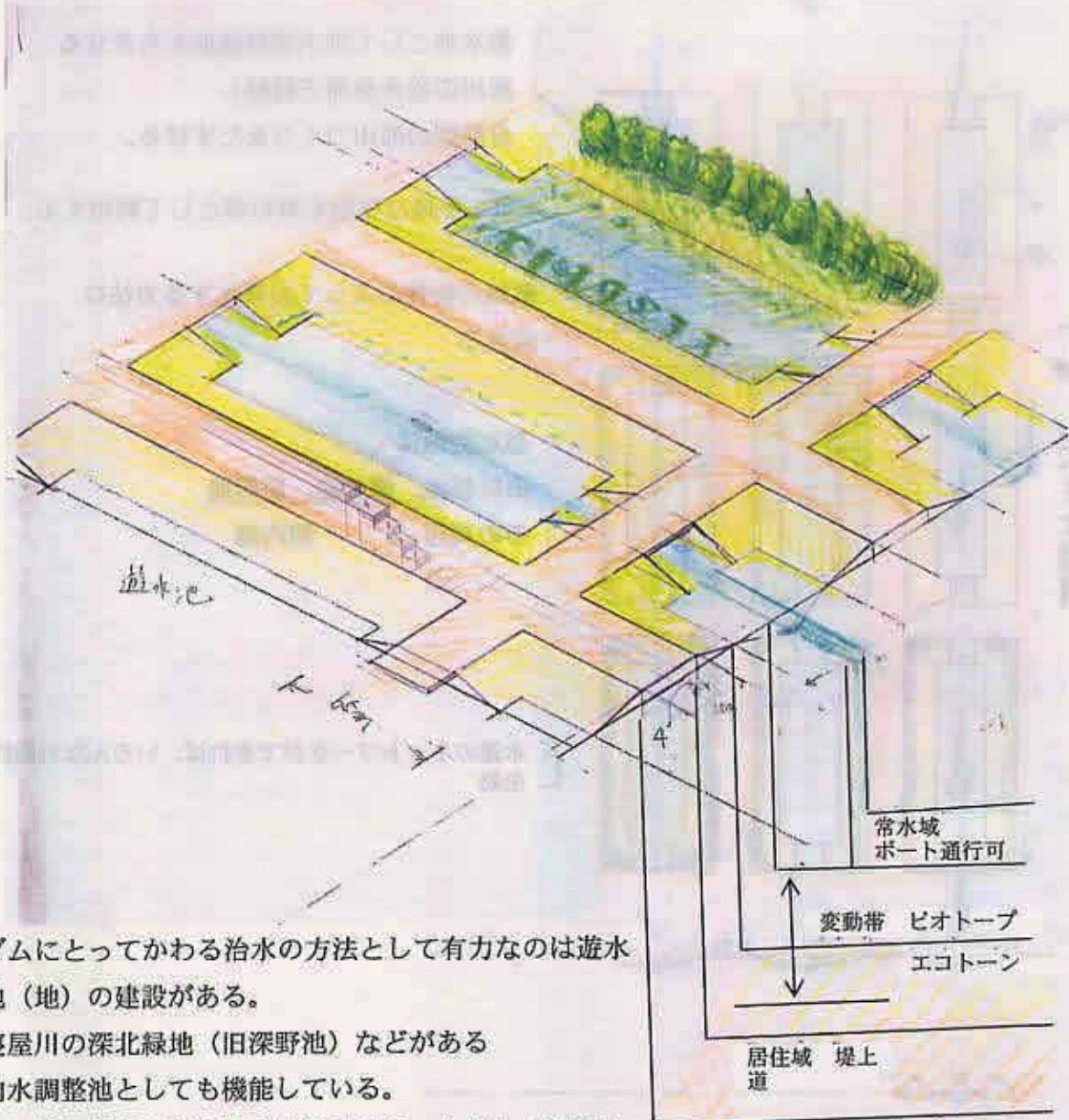
以上のようなことで、委員の皆様にご相談申し上げます。

今一度、高規格堤防事業の詳細な現状に目を向けていただき、河川管理者に対して、「高規格堤防事業を一時中断し、法整備等を行い、全体計画の詳細の見直し・策定のうえ、問題を解消して再開すること。」を求めていただくことは、委員会として有意義な動きなのではないでしょうか。

最後になりましたが、私共は淀川の治水事業に関わった仕事を生業とし、流域に暮らす者共で御座います。自らの身分を名乗ることは、多くの方々に御迷惑をお掛けすることに繋がると判断し、匿名にて御意見を申し上げた次第であります。まことに勝手であるとは存じますが、私共の意見をも御心に留め置かれ、御議論いただければ幸いと存じます。何とぞよろしくお願い申し上げます。

平成14年10月11日

敬具



ダムにとってかわる治水の方法として有力なのは遊水池（地）の建設がある。

寝屋川の深北緑地（旧深野池）などがある内水調整池としても機能している。

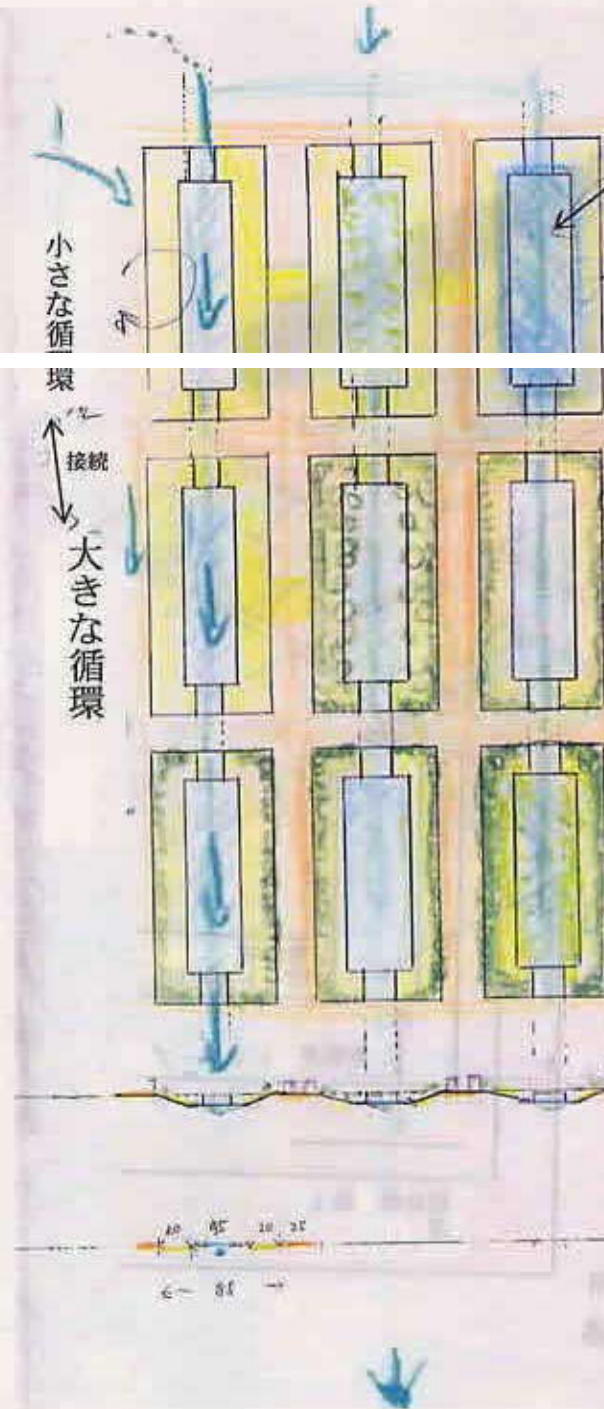
人の住む場所と遊水池を合体させる。もともと氾濫原（池、沼）だったところが都市化されていることも多いので不自然なことではない。

水位変動に対応し生物の多様性は育くむ。

カンボジアのトンレサップ湖を考えると水位変動と生物のゆたかさには、関係があるように思える。

多雨 遊水池 - 排水

少雨 貯水池 - 内部じゅん環、浄水 (付加機能)



遊水池として洪水調整機能をもたせる
河川の治水負担を軽減し
自然型の河川づくりをたすける。

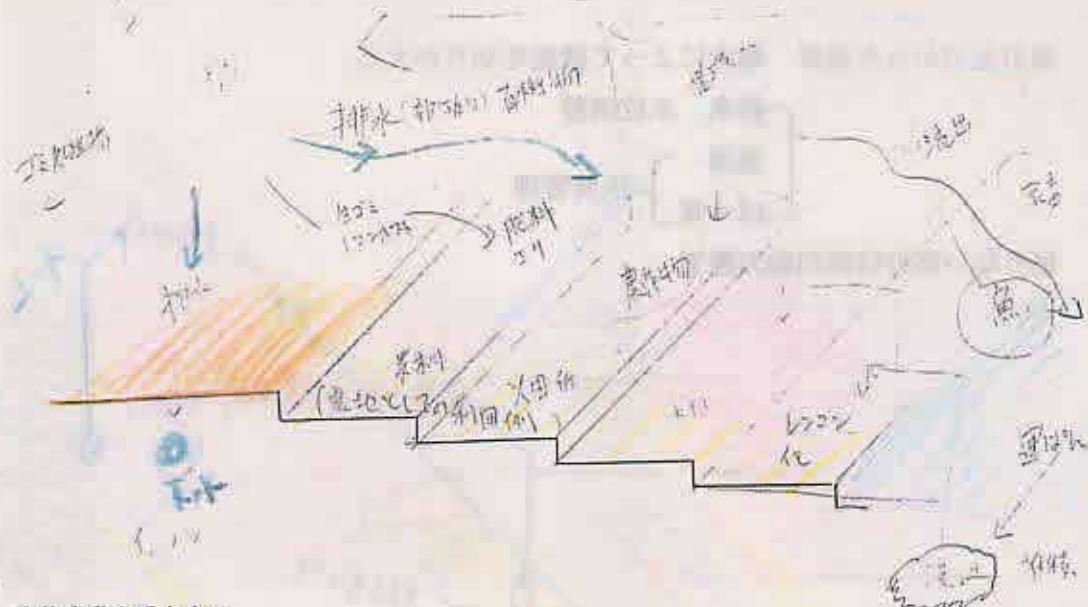
水辺を多様な生物を育む場として利用する。

敷地の特性によって組織化する手法は
敷地の特性によって組織化する方法は
変える

想定敷池は
旧巨椋池、深野池、新開池
その周辺 河内湖

〔水運のネットワークができれば、いろんな可能性が生まれる
生物〕

斜面のこう配は利用のしかたによって調整する



水位変動を受容する

人間も参加する局所的（ローカル）な物質じゅん環を形成する。

多様な生物を維持する。

斜面には水との接触に応じた { 植物 } を育てる
 { 作物 }
 エコトーン

人による手入れが不可欠

管理する人が近くに住んでいることが必要

モンスーンアジアのデルタ地帯の農村などが参考になると思う。

(メコンデルタ、チカオブラカ)

エコトーンのイメージ図

桜井善雄氏を参考

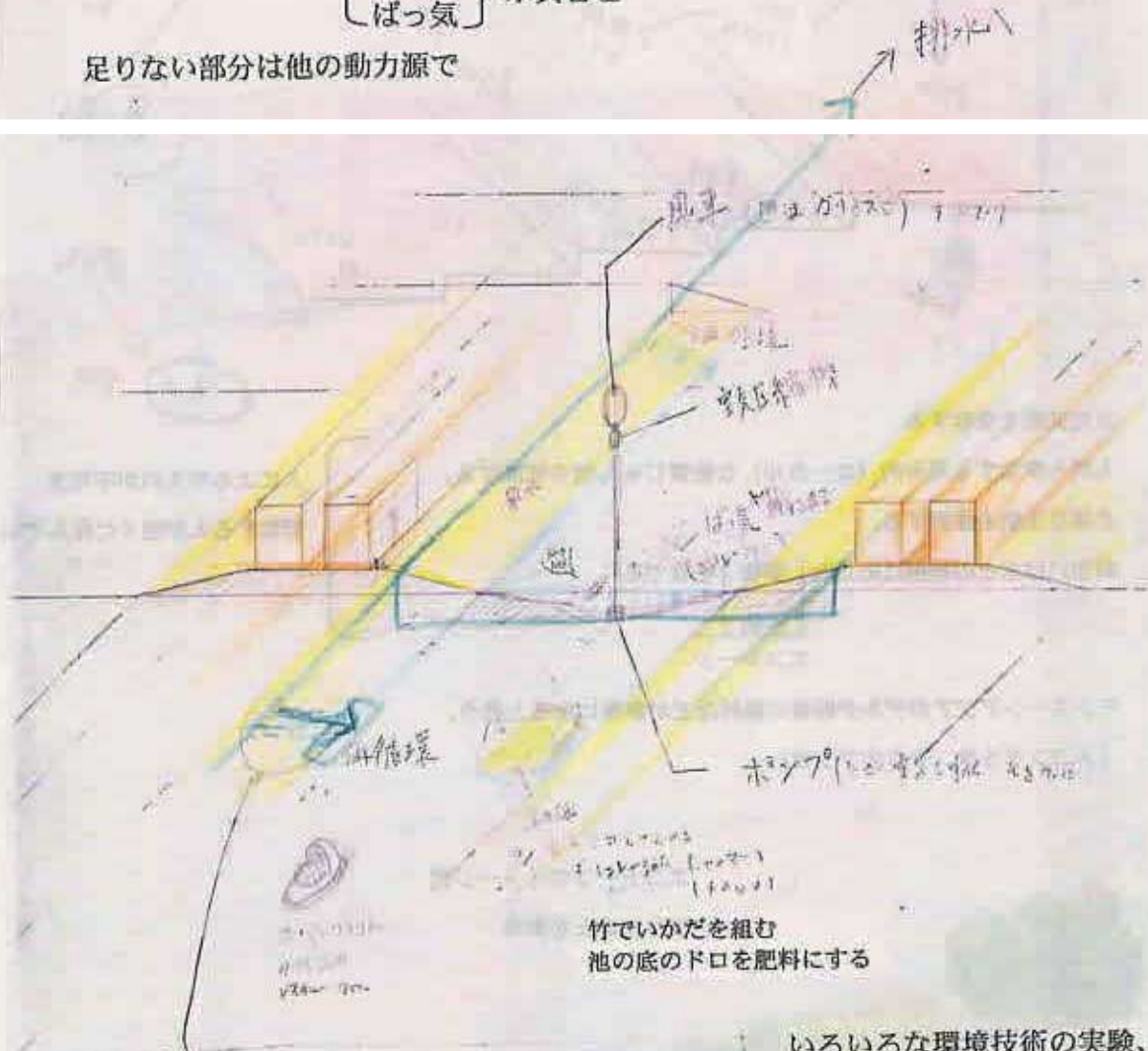


| | | | | | | |
|----|-----|------|------|------|------|----|
| 陸域 | 水辺林 | 湿生植物 | 抽水植物 | 浮葉植物 | 沈水植物 | 沖帯 |
|----|-----|------|------|------|------|----|

風力をつかった装置 場合によって機能を切りかえる。

排水 水位調整
循環 } 水質管理
ばっ気

足りない部分は他の動力源で



いろいろな環境技術の実験、学習、
開発の場となりうる。

ろ材…使いおわったら土の改良に
(炭・竹炭など)
ろ過機能のあるカスケード

傾斜地の場合



- 斜面の保水、土砂の流出防止
- 手のとどくところにあるビオトープの創出
- 身近な物質循環

以上基本的なアイデアスケッチです
現実化するにはさらに発展させた案の作成が必要ですが
そのためにもたくさんの方の意見がいただければと思っています。